

支援

黙ってはいられない

虻田3区
小林 克美さん

今回の東日本大震災で親族が被災した小林さん（虻田3区）が、4月7日から9日まで、真屋町長の親書を携えて、親族が住む宮城県岩沼市を訪れ、市長らに面会し、避難所に支援物資を届けてきました。震災状況や防災について話を聞きました。

「今回の震災で親戚がなくな
られたそうですが。」

「親族が6人亡くなりました。3区、4区には岩沼市や名取市から来ている方が多いので、私以外の方でも親戚が被災している人が多くいます」

「市内の被害状況はどうですか。」
「岩槻市の人口は約4万4000人ですが、死者・行方不明者が約150人の上っています。市の面積のおよそ半分が浸水しました。私が行った時は、避難所が3カ所あり約700人ほど避難していました」
「まちの様子はどうな状

態でしたか。」

「高台から海がすべて見渡せるほど家が全て無くなり、それが数百㎡にわたって続いているわけで、どう言葉にしているかわからない感じ。想像を絶するすごい状況です。この辺は米の産地ですが、田んぼに海水が入って、米を作れる状態ではなくなっています」

「避難所を回って支援物資を配布したそうですね。」

「JA富良野など私の仕事関係や町内の友人などの協力を得て、たまねぎ500㎏、いも

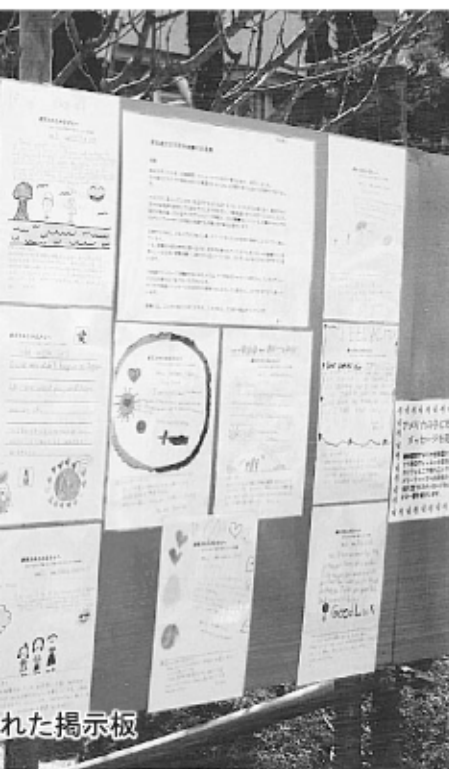


町民から託された支援のオブジェを手にする小林さん

500㎏などの野菜のほか、カレーなどのレトルト食品約500箱やジュース、お菓子類なども持っていきました。北海道の野菜ということで、大喜ばれました」

「市役所に行つて、井口市長にもお会いしたそうですが。」

「真屋町長の親書をいただいていたので、市長に渡し、お見舞いを伝えました。親書を見て大変感銘されました。ただ町のご支援はたいへんありがたいが、『現状では洞爺湖のほうへ行ける状態ではない。これを



掲示された掲示板



環境課
さわやか環境係
主任 木村 慎一

4月11日から21日まで被災地支援のため、白老町と姉妹都市の宮城県仙台市若林区に派遣されました。

現地に到着すると、事前の報道などで見ていたのとは違い、あまりにも広範囲にわたり何もなくなっている状態に唖然とするばかりでした。

避難所で配食や夜の警備などの支援活動をしてきましたが、一人ひとりが肉体的にも精神的にも相当疲れていて、行政側からの一言ひとことに、ナーバスになっていました。有珠山噴火時は合併前ということで、直接避難所の対応経験がなかったので、自分自身も大いに勉強になりました。

